京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
發行兼編輯人　高木久馬太郎
印刷人　松久謙一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社　電話大三番　振替口座京城四五六番
仁川支局　仁川本町三丁目　電話二一一番
東京支局　東京市京橋區南佐柄木町七番地

東拓會社評（一）

代議士大内暢三氏談

●東洋拓殖會社は隨分と不評判な會社である、不評判と云へば恐らく天下無比であらう、然るに此東拓會社の恩惠に頼らんことを期待せし朝鮮地方ですら既にこの有樣であるから、本國に於て我國土の發展に資せんが爲に少なからぬ國費の犠牲を彼に供してをる我國民一般の不平は言はずもがなである。

●何故斯程に不評判であるか、之を分析して見ると、込入つた事情の伏在してをるに相違ないが、先づ大体に於て予が東拓に對する評語は、現在流布されてをる世評とは聊か異なつてをる、寧ろ比較的單純である、而かも予が毎に論ずるものは根本的である、根本を究めずして時來も技を發し藥を生ずるに際して俄かに批議を加ふるが如きは、洵に迂遠千萬なものと思はれる。

●最近、東拓が各方面に亘り田畑の買收を益々盛んにやつてをる、其間には個人の利殖を妨げ、或は實買交渉中に屬するものを橫奪的に買收し、尚且つ低利の命即ち補助付の金子を以て個人に對し競爭を試みてをるから、何を以てか個人は之に克つことが出來やうぞ、甚たしきは東拓それ自身直接にでもやることか、多くは仲買人を使用して土地賣買の相場を蹂躪してをると云ふ事などは、近來東拓に對する不評判の的となつてをるやうである、世評の全部或は事實なるか否やを懸念するも、多少は必らず事實なるを疑はない、して見れば不平の聲起るは尤もの事にして予も亦いくらかは之に同するに吝ならざるものである。

●予が毎に疑問としてをるのは、何故東拓會社は如此田畑を買收せねばならぬかと云ふ事で、勿論土地買收不自由の時代、或は大規模の買收を缺かねば整理不可能の時代ならまだしも、現代に方つて、何にも騒ぎ廻つて右樣の擧動に出づる必要は何處にあるか、茲に予は朝鮮の社會前途に付て最も注意を要すべき點があると思ふ、开は朝鮮の社會組織といふ事である。

●顧ふに、貧弱の極度に達し而かも原產地のみ存在せる如土に對して、一方進取利殖の氣慨に満ちたる民族が其經營を爲す場合に當つては、時に或は社會の均衡を失して、恰かも英國の愛蘭の如く、大地主揃ひに社會が組織せられ、彼の飯の煮損じと同じく處々にトラホーム樣のものを生じ、往々にして健全なる社會を保ち得ざる事に歸著するものである、これ今日に於て爲政者たるもの〻大に注意をせねばならぬことである。

●東拓が土地買收に汲々たるは、將來甲種移民に分與すべき其原料をば怠りなく仕入てをるのであると云ふ事が、此際彼東拓最上の口實であるべく、又これが東拓に對する局外者最善意の解釋であろうと信ずる、然れ共予は第一に斯く解釋しながらも尚ほ安心することが出來ぬ、何となれば東拓會社の爲す所實に迂にして且つ不經濟極まるもののあるを認めてをるからで、是れ則ち予が東拓會社評の主眼となるものである。

●肺結核の豫防（九）

贊化病院　河野作藏

△肺結核の豫防

第三感染機會を少なからしむと云ふは其範圍甚だ廣く例之は工場の如き一定人の集合する團体は定期的健康診斷を勵行し病毒の散亂の恐れある患者は全然隔離し結核にて死亡したる場合は其家屋の消毒をなすべきことである此等は賢明なる中央政府の法令と醫師人民の衛生的智識の啓發と相待て奏効すべきものであることは前に論せし處なるが茲に尤も難事となす「傳染機會を少なからしむこと」で就中患者を隔離し病毒の散亂を防ぐと云ふにあり其れは政府の公力を仰がねば不可能事である何となれば貧者にありては一日休すれば一日食せずと云ふ際其日の米鹽に事を缺き治療費に言を待ず患者家の糊口をつなぐ主人とりせんか其家族は饑へに啼く慘狀を見ることとなり勢ひ勞働し得る間は疾病の如何を問ふの暇なく病は進みて遂に斃れ家族は社會の厄介者となるのである此に救助の機關なくして病毒の散亂を防がんと望むは木に攀ぢて魚を求むる類である從て社會に受ける損害は病毒を撒亂して肺結核の後繼者を許多殘すのみに止まらず患者死すれば生產力を失ひ家族たる厄介者が出來ることは見易き理である歐米の文明國では已に茲に注目し國家事業として肺結核療養院なるもの〻設備ありて其成績佳良なるとのことであるが我國には悲哉其機に逮せぬものである又幾多の工場に於てはか〻る設備を組織し肺結核の蔓延を防ぎ已に熟練せる工男工女を永年月使役せんことは一考に値すべきことで事業家たるものは目先の利害のみに眩暈せず永遠策を講じ人生の安寧と幸福を貧者に分つは社會に對する徳義であろう公私共に一刻も早く此設備をなさんことを希望するのである（終）

外事一束

▲出兵　目下摩洛哥國に向け航行中の西班牙國巡洋艦は軍隊を搭載し駐屯。

▲西國　領事にして右軍隊の上陸を必要とせば直ちに上陸せしむ筈之に付。

▲佛國　の新聞紙は擧つて批難を加へをるに徵せば或は佛西葛藤を見む乎。

▲伊國　羅馬に於て國民紀念碑の除幕式を舉行し皇帝臨場あり頗る盛を極。

▲言禍　米國大統領タフト氏の米加互惠條約に關する演說端なくも上院の。

▲議員　一部の激昂となり條約案本議に移らんとする際非常の妨害たらん。

▲歡迎　マデロ氏墨都行途上各市は盛火祝砲を打上げ市民萬歲連呼歡迎盛。

▲候補　墨西哥大統領候補者としてリエス將軍出馬氏はディアス側の人也。

▲佛國　は陸軍飛行費七萬二千磅可決現飛行學校の外新たに一校を設く。

▲密謀　土耳古皇帝マセドニア旅行道筋に爆彈發見せられ何者の密謀か。

▲露國　參議院は黑龍州沿岸領海十二哩法案可決し日本に通告後實施の筈。

▲該法　違反の場合適用の最大刑罰は禁錮三個月罰金六十磅及船舶沒收也。

召使れ初

第七十三回　黒法師



「澤野樣、あらせますかな」

れ年寄の筆頭澤野の居間の外に立ちて優しく呼ふは澤野の下に使はる〻中年寄の相生なりき、中年寄は時として年寄の御殿を勤むることあれど、平生に年寄の下に屬きて、年寄の指圖を受け、年寄の命に從ひて、その職務を補助するなれば、宛ら局長と次長との關係なり、れ道が國尾の中年寄なる如く相生は澤野の中年寄なり、年寄と中年寄とはその間一心同体なり、將た形に添ふ影の如くなり

「誰方でござりまするな」



次の間にれ土產人形の衣服縫ひ居たる召使の梅は、慇懃に問ひ返しぬ、召使なれど澤野の手に屬するなれば、平のれ仲居、れ末には增して、御殿に巾を利かせ居るなり

「れ梅どのないか、私ぢやわの」

「相生樣でござりまするか」

「れいの」

「旦那樣れ待ち兼ねでござります、疾う、入らせませ」

「さうあらうの、疾にも參る筈を、折柄奥方御用あつて甚う後れ、澤野樣れ腹立ではあるまいの」

「いゝ〳〵」とれ梅はぶつてり肥ねて色白き顏を掉り「左樣にもござりませぬ」

「それで安堵ぢや、れ執次たもゝまいか」

「れ執次にも及びませぬ、日頃れ間、すツとれ入りなされませ」

「さらば発させ、急に温うなつて、れ庭の櫻も色付いて參らうの」

相生は數ならぬ召使にまで機嫌取つて、奥の間をさし覗く、澤野は唐木作りの机に、古今集繙きて、蒔繪せる茶棚の上に、青磁の香爐配合好く、香の烟たよ〳〵と風情あり

「澤野樣御発しなさせられ」

「相生どのか、忘れずに來せちや喃」

「忘れはござりませぬ、奥方御用ござりまして、殊の外遅刻のれ詫、平にれ発しござりませ」

「珍らしいことの、奥方御用とあるならば、國尾どのに仰せ付けもなさせられいで喃」

「今日は東風が吹くでござります」

「道理での、はゝゝゝ」と澤野は口に手を當てぬ、六十にも近かるべき年ながら、昔の色香は物凄きまで化粧せし目許に殘りて、黒々せし鐵漿の光澤美しかりき

「うれはさて、今日の御內談は何事でござりまするな」

「他でもない、れ道どの事ぢやがの」

「れ道どのれ早い御出世でござりまするな、これも皆國尾樣れ引きとは申す條、あまりの事に目を側めぬものござりませぬ」

「どうやら御前御目にも注かせの樣ぢや、今にも中臈へれ役替ね、れ手でも付いて御覽じませ、それこそ此方一大事ござりますでの、うれのない中、れ道どのに自滅らせる工夫、これが肝要でござりますでの、うれこれ御相談、あなたれ智惠も借りたいと存じ付いてちよとれ招き申したわの」

「私どもの智惠よりは、澤野樣御獻言に價ござります、あなた思召しまつ何のやうでもあらせます」

「さらばござるかの、れ道どのに自滅させるといふて、尋常一樣の事でござらぬでの、私もとつと頭痛に病む、月に雲のかゝつたは鬱陶しいものござるのう」

京城新報

祝仁川築港起工式

附築港運動功勞者を紀念せよ

●仁川築港起工式は寺內總督以下多數の官民參加し、本日同港頭に於て擧行せらる、同市民の齊しく此日を待焦れし事とて其盛儀や蓋し想ふ可く市民の歡喜と市中の殷賑亦察するに餘りあり、吾人は同築港完成の曉、仁川は無論京城の地が享くる所の利益甚だ鮮少ならざるを信ずるを以て、本日の盛儀を見るは既に熟果を手に入れしが如き心地ぞせられ、衷心愉悅の念を禁ずる能はず、茲に一大白を擧げて其起工式を祝せずんばあらざる也。

回顧すれば、日淸日露二大戰役に際し我陸軍は仁川港を上陸地點に撰びしこと數回、軍需品亦殆んど此港に揚陸せられ、商港として始終すべき地位に立てる仁川は一朝にして兵站要地として其名を轟かすに至り、當時仁川市街の繁榮は實に京城を拔く數等の上にありき、然れども是れ一場の夢幻劇たりしなり、戰爭の終ると共に其繁華は他に移り漸次沈衰に趨り僅かに輸出港として餘喘を保つの悲況を示すに止まれり、吾人は之を見て榮枯盛衰地を易ゆるの速かなるを嘆た感せしも、翻つて考ふれば、他に因つて爲されたる繁榮の到底永續すべきものに非ずして、自から終始一貫の方針を固守し、矯揉剝削其地の發展に思を罩むるを以て萬全の策なることを天理によつて示せるもの、即ち他動的に比し自動的の優れるの法則が現れ來りしものにして、天の下せる教訓なるを自覺す可し、而して忌憚なく云へば仁川の衰運は他動的に傾きし結果のみ、幸にして仁川の識者爰に省みる所あり、先づ商港として一大活躍を試み此衰運を挽回せむと欲せば、其不具的なる港を改築し大船巨舶の出入を自由ならしむるの最大急務なるを叫び、商業會議所率先して此問題を提唱し次で仁川築港期成同盟會の組織となり、仁川市民一齊に起ちて此目的を貫徹せんことに努め、其間有志の內地港灣視察をなすあり、又運動費を助けむが爲、產を傾けし者、或は熱心溢れて不知不識の間に刑辟に觸れ不幸縲紲の辱を見る者を生ずる等、寔に慘憺なる苦心を重ねしこと幾歲、あゝ至誠天に貫くの譬に洩れず、數年來の懸案も寺內總督の盡力により終に解決され、本日开が起工式を擧ぐるの吉運に際會せし仁川市民の喜び如何ばかりぞ、然れども仁川市民の最も奮勉砥勵を要すべきは向後にあり、想ふに築港工事中其影響は直ちに市街の繁昌を見るならん、市民は之を見て決して枕を高ふして眠るべからず、唯市民諸士が造次顚沛の間にも忘るべからざるは改築後の港灣利用にあり、商港として覇を釜山大連と爭ふにあり、吾人之を仁川市民諸士に望むと共に更に政府に冀ふべきものあり、何ぞや、工事期間を短縮し速かに其竣成を期せられんこと是也、現在設計に依る六個年繼續は餘りに悠長に過ぐるの憾なき能はず、此事或は隴を得て蜀を望むに等しと言ふ者あらんも、半島港灣の整理は產業發達に至大密接の關係を有せるものなることを思はゞ敢て吾人の進言無用にあらざるを信ず。

●終に、吾人は仁川港改築問題のため奮鬪努力を捧げ爲に傾產の悲運に沈み遂には思はぬ禍を身に蒙むりし不幸なる人々に對し仁川市民は开が功勞を紀念し併せて之を慰安するの責務あるを認む起工式盛儀を祝すると共に聊か思ふ所を述べしも吾人仁川の將來に貢献せんとするものあるが爲也、尙築港完成後の京城に付ては不日新めて之を論せむ

東京電報（十日發）

▲展覽會行啓 皇后陛下には來る十三日本美術協會內の東京彫刻競技會展覽會に行啓あらせらるゝ旨仰せ出されたり

▲帝國の海軍策 小笠原島に海軍根據地を設置すべくとの說に對し海軍當局は語つて曰く我帝國の海軍策は固定的防禦にあらずして實に機動的防禦の方針を執り居れり故に巨費を投じて海軍根據地を造るより寧ろ一隻の軍艦を增建する方を可とす從つて小笠原島に根據地を造るなどは世間の臆說に過ぎずと

▲國債現在額 大藏省の調査に係る五月末國債起債額現計は內債十三億五千四十七萬三千三百圓外債十四億四千七百二十四萬九千二百圓にして償還額は內外債を通じて合計二億一千七百八十二萬四千九百六十圓なりと

▲鹿兒島知事內定 鹿兒島縣知事の後任に就ては爾來詮議中なりしが愈々內務省參事官安河內麻吉氏に內定し今明日中に發表せらるべし

▲港灣調査會 港灣調査會は內相官邸に於て開會、青森、鹽釜、大湊の第二種港灣改築に關し調査する所ありたり青森に就ては特に陳情ありたる事とて議論多く遂に具體的決定を見ずして散會せり

▲革命首領墨都乘込 革命黨の首領マデイロは七日早朝入洛の豫定なりしかも地震の爲め遲延し正午入洛せり此變災の爲め市內の損害甚大なるに係らず市民の歡迎は頗る熱烈を極め市民代表者數千名は列車に乘じマデイロ一行を出迎ひ市內要所には凱旋門を建て敬意を表せり

▲墨國大地震 墨國來電に依れば今七日同市に大地震あり死者二百名に到れり公設建築物悉く損害を蒙り兵舍及人民の家屋數百戶破壞されたり

雜報

●總督起工式臨場 既記の如く十一日は仁川築港起工式擧行に付き寺內總督には午前八時十分南大門驛發列車にて下仁し式場に臨み午後一時二十五分仁川驛發列車にて歸京さるゝ筈なり尙ほ大久保軍司令官も同列車にて下仁すべく總督の隨員は宇佐美內務部長官、明石警務總長、池田通信管理局長官、兒玉秘書官、外波武官、中山武官、津野中佐、藥師川警務部長、藤田副官其他等なりと

●五月中の朝鮮貿易額 其筋の調査に係る五月中朝鮮各港灣及樞要の地に於ける貿易額合計七百〇二萬七千六百二十六圓にして內輸出及移出額百七十六萬七千四百二十三圓輸入及移入額五百二十六万〇二百三圓にして即ち三百四十九萬二千七百八十一圓の輸移入超過を示せり

●各道授產計劃（十二） ……京畿道……

▲京城府授產事業 は第一恩賜授產蠶絲場第二恩賜果樹栽培獎勵とし第一を養蠶部製絲部に分ち養蠶部には左の事業を定む

一、養蠶 受產者五十名を收容し每年五月より九月迄春蠶秋蠶七十匁夏蠶又は秋蠶三十五匁を飼養せしむ

二、桑園設置 將來受產者に桑葉を無償供給する目的を以て本年春期より適當の地に十町步の桑園を新設す

三、桑苗圃設置 受產者に桑苗を給與する爲め一町步の桑苗圃を設く

四、桑苗配付 桑樹を栽培せしむる爲め本年度桑苗七千五百本を購入す

又製絲部に於ては受產者を始め一般養蠶家に便を與へん爲め每年三十五名の傳習生を收容して座繰製絲を行ふ第二の目的を遂行せん爲め本年度に於て果樹苗七千五百本を購入配布し以て其栽培を獎勵す

▲其他各府郡事業 仁川外三十六郡中適當の地に八ヶ所の共同恩賜授產場を設く而して左の事業を傳習す

一、養蠶 授產場八ヶ所を通じて二百九十六人の受產者を收容し春夏秋蠶の飼育法を傳習すべし

二、桑苗養成 受產者に桑苗を配付する爲め各場に桑苗圃を設けしむ

三、桑苗配付 初年入場者二百九十六名に對し本年度に於て速成桑苗設置用桑苗一人三千本宛を購入配付す

四、補助 受產者に事業上必要なる桑園の肥料簡易蠶室築造及蠶具調製費に對し今明年度相當補助を給す

五、養鷄 將來桑園に於て養鷄を行はしむる爲め授產場に於て種鷄を購入し雛を養成して配與す

六、作蠶 八ヶ所の授產場を通じ三十七名の受產者に對し一人一町步の飼養林を擔當せしめ作蠶飼養法を教ゆ

▲農業實習員養成 是亦各府郡の共同事業とし每府郡一名宛の生徒を撰拔して勸業模範場附屬農林學校に囑託して稻作の實習を主とし更に養蠶造林等農事上必要なる實務を教習す而して若くは必要なる農家の副業を悉く實地的に練習せしむる筈なり其實習場は水原模範場附屬田同養蠶場及農林學校內の道所管苗圃を以て之に充て每年四月二十日より十月廿日迄を修業期間とす

●朝鮮水產組合組織變更 朝鮮水產組合は其創設非常に古く爾來當局の保護によりて內地漁業者の取締及漁業上各種の便宜を與へ居りしが右は主として內地漁業者のみにて朝鮮人漁業者に何等の關係なきのみならず該組合は外國領海に於ける水產組合法に基きて設立したるものなれば併合後の今日は當然組織を變更するの必要を生じたれば今回發布されたる漁業令に從ひて近く組織變更に着手すべしと云ふ

●北韓貿易の多望 文學士鈴木信太郎氏談

元統監府の囑託を受け北韓貿易の調査を遂げたる鈴木信太郎氏曰く

▲間島及渾春 單に北韓貿易の調査といふも其區域は何にも茫漠として明確に之を指定するは頗る困難なり故に現在の處に於て北韓方面との交渉を有する間島及渾春に就て之を述べんが概して多額の將來あるを認めたり而して該方面との貿易は尙は未だ輸出關係のみにして輸入貿易に到りては殆んど絕無といふも不可なし今茲に以上兩地の輸入品消費額を推定するに渾春約二百万圓間島約四百萬圓合計六百萬圓位の程度に在り然らば此六百万圓の輸入品は如何なる地方を經由し來るかといふに朝鮮より入るものは清津及城津の兩港を經又清國より入るものは吉林より來り更に露國より入るものは浦鹽を通過し西比利亞鐵道によりて散布せられつゝあるなり則ち日清露の三國によりて供給し居るものとす

▲微々たる吾勢力 顧みて吾朝鮮を經由する輸入品の總額幾干かといふに現在約五十萬圓に過ぎずして之を地別すれば渾春に向ふもの十五六萬圓間島に入るもの三十四五万圓の少額にして在り元來地理的關係より之れを看る時は彼の吉林若くは露領經由に比し清津經由の路は頗る利便なるに拘はらず斯く微々たる勢力下に在るは大に遺憾とすべき現象ならずんばあらず蓋し該方面は土地肥沃にして巨多の農產物に富む故に之を開發すれば今後倍々其購買力を增進し輸入品の總額更に一層大なるに到るべきや何人も看て疑はざる處なり然るに事實は正さに斯くの如し是れ予が其將來の多望を叫び一般商工業者の注意を促さんと欲する所以なり

▲稅關取扱の改良 若夫れ清津港の稅律の施行せられしより漸く一年に過ぎざるが其成績大に見るべき者ありて現に渾春方面に對しては嘗て一品の供給をも爲し居らざりし者が僅かに十五六万圓の輸出を示すに到れりたれば交通路の開鑿と共に今後益々增進すべきは毫も疑を要せず然るに清津港に於ける稅關吏の取扱振りを見るに漫りに支那人を虐視し恰かも苦力を扱ふを以て臨むが如き狀あるは大に注意すべき所以なりとす見よ清津開港以前に於ける該方面貿易は清國及露國の兩勢力の分に在りて然るに浦潮の稅關吏往々賄賂により通關の難易を決する爲め清商等永く其弊狀に遭易し居りし際偶々同地の開港を見次いで免稅律の施行あるや清商等は以て相率ゐて此利便に浴せんと欲し居れるに以上の如き苛察の取扱を以てせば折角此良傾向を頓挫せしむるに到らん事を虞る

●商工調査事務囑託 元統監府間島出張所に在りて北韓及露領一帶の事情に精通し同出張所撤退後引續き北韓貿易の調査に從事し居りし文學士鈴木信太郎氏は今回農商工部の囑託を受け同部の商工業調査に從事する由

●金融組合の成績 京畿道管內に於ける金融組合貸付高は各組合を通じて四月迄の總越高九万四千餘圓に及び四月中の廻收は一萬二千圓にして春季は尤も貸出額の增加し廻收額の少き割合なりと云ふ

●會社屆出を急げ 會社令第十七條乃至三十九條に該當する會社にして同令施行規則六條第八條によりて屆出をなすべき筈のもの今尙提出せざる者ある由なるが該手續を履行せざれば相當の制裁を受くるに至るべし故に未屆出の會社は此際至急屆出をなすべし

●安梁等の適用法 安命根及梁起鐸等に係る擬律は既に決定し安等十八名は强盜罪として又梁等十八名は保安法違反として起訴されしが右は兼ねて陰謀事件と稱し世上喧傳せられたるより此罪名を不審がるもの尠からざるが如し是に關し地方裁判所某當局者語つて曰く元來法律は其所爲を罰するを以て原則とす故に其因由が那邊に在りとするも毫も顧みるを要せず換言すれば現に行はれたる强盜といふ事實を標準として處斷するの外なきなり若し其因由が事實に現はれ銃器彈藥を輸入するが如き事あらば茲に始めて內亂罪を成立すべきも彼等の處爲は未だ茲に到らずして發覺せり故に斯く擬律せる所以なりと

群山俄道中記

ホ便（葉書便りの續き）

五月三日 山靈水神生

コ、群山の眞價値は秋九月よりソロソロと、田の水落ちて空渡る雁がねの羽も疲れやせんず全州平野の、黃金の波全く收まりて築く米の山は、錦江、萬頃江、東津江の水の流れに浮んで下ればいと便利な船で、運ばるゝ其高二十五万石を稅關波止場に山と積んで、昨日も出船今日入船の素破らしい景氣を其時分に來て御覽じろと、案內者の言譯サテもとばかり淋しい波止場を通り拔け近いと云ふから先づ群山日報社に舊知の龍門を訪ふ。

龍門由來特別製の人種に屬し、言行常に俗中に異を樹てゝ自ら忘れ他が忘れ興に乘ずれば筆を執つて萬言立地に成り、筆を投ずれば大の字に寢そべつて三日門を出でず、怒つて飮めば斗酒を傾け、樂んで語れば二合の酒にれだり出し、一旦威すれば夜中飛び起きて郊外に嘯くが如き、龍門の奇行に非ずして奇行の龍門たり。

例に依つて今朝も驟然御外出でと寢ぼけながら語りながら當直社員君の出して呉れた茶を啜れば、イヤー冷度いことゝ確かに昨夜の殘り物に相違なしと見て取つたり。

待つ程にイヤニ大きな頭がやつて來た頭の所有者は正に龍門にして益々其大を加へ彌々其格好が變テコになりかけたり

ヤーと一聲、あとは顏の造作を崩して興から嬉しくて堪らぬ樣子なり。

兎も角宿につかんと龍門に導びかれて旅館若宮に至り朝食を濟まして先づ天野群山府尹を訪ふ不在、民團役所に坂上民長を訪ふ是亦病氣引籠中、お隣りの商業會議所書記長高須君も矢張り同じ、今日の樣な日は何處へ往つても誰が居ないと龍門一流の哲學論に感服して宿所に歸れば藤本合資會社群山支店主任澤村九平氏は、臨益水利組合長代理として挨拶に來らる、聞けば水利工事竣工式場は是より六里餘の田舍ぢやとの事、ヘテサテ又しても一苦勞仕て見るも面白からふ、何事も後日の話しの種ぢや。

●山口書記長の宴 京城商業會議所書記長山口精氏は內地新聞特派員及各新聞社長等を十日午後六時京城ホテルに招待し盛なる宴會を開催せり

●笹部專助氏の榮轉 當地百三十銀行支店在勤にして敏腕の聞え高かりし笹部專助氏は今回仁川支店次席として榮轉せり

▲京城手形交換高▼

月日	金高	枚數
六月十日	一四〇〇二七、七七〇	四五三

內地巡禮日記（十三）

水浪生

題して巡禮日記と云ふ、而かも昨日迄の記述は標題を外れたる東京滯在日記、サテ今日からのが正眞正物、讀者其心して一盤を玉ふあらば幸甚。

五月十六日、神路林中の放鷄が曉を告げた、窓を開けば二見ケ浦の方角から段々白んで來た、起床水盥に身を潤め午前八時家族と共に五二館を出で、案內者に連れられ神路の聖域を指して進む。巫城宇治間に架せる立派なる新橋を渡り、男女多數の參拜者と共に步を移し、五十鈴の流に淨めをなし、神杉亭々たる間を無言にて進む。

茲は畏くも國母陛下の行啓とありて其中央に二見の小砂利を敷かる、余步を運むで石段を登り、第一玉垣の御門前に到り、謹み畏みて禮拜を遂げ且つ我總督を始め一千三百万半島日鮮同胞の爲に祈る、神德維れ崇く、神威維れ尊し、草莽の一民暫くは頭を擡ることも能はざりき。

御門前を退き衛士詰所に到り、老衛士に就き各階級參拜者の特定參拜所に付て聞く、衛士答へて曰く皇族の御方は別とし親勅奏任官等の參拜所を特定せられたるは明治二十二年後の事なり、而かも該特定參拜所へ親勅奏の入るを許さるゝは御儀式の時に限り、平素は皇族の御外萬民皆一樣に第一玉垣御門前に於て拜を遂ぐるなりと。思起す、明治三十二年余が始めての參宮には內宮は假りの御宮であつた、今は御造營成り、內外萬民の來り拜する者をして崇敬の念を彌增さしむ、難有しと云ふも難有事かな。

內宮の靈域を出て外宮の靈域に到らんとす、今朝來し道は元の古市街道、これお杉お玉なんどの行人に向かつて切りに投げしやんせを呼ぶところ、淺間の萬金丹を賣るに本家總本家、正本家など勝手な金看板を掲げて本家爭ひに日も之れ奇ならざるところ、幸か不幸か、余はお杉お玉に用なく、亦萬金丹を求むるの意なし、因つて新たに成りし國道をば人車に便して馳る、之を聞く內宮外宮間の國道其落成を告げて月餘に過ぎず、ナル程見れば十五間幅の車道は出來たての蒲鉾の如く、兩側の煉瓦人道には塵埃一ツを止めず、加ふるに御木本幸吉氏の寄附せる楓樓其他の風致林あり、新國道の設備行人をして轉た感歎に堪ざらしむ。

風致林を寄附せる御木本幸吉氏は世界に有名なる養殖眞珠の元祖本家にして志州鳥羽の人、幹線理事木村雄次君同鄕の先輩なり、人も知る志州は我歷史に於て名の現れざる地也、源平藤橘何人の天下となるも志州は常に圈外たり而り志州は圈外たり、二千五百年治亂史の圈外たり、然れ共是を我師故田口鼎軒先生に聞く志州は神代に於ける開明地なり、畏くも天照大神に深き因緣を有するの地なり、而して彼鳥羽港は我帝國主義搖籃の地にして亦神代に於ける太平洋岸唯一の貿易地なり、我帝國主義を論じ我國際貿易を論ずる者豈志州を究めずして可ならんや、と。御木本の眞珠は鳥羽港內に產す、今や國際貿易品として世界に需要せらる、开が有する光輝は蓋し是れ神代帝國主義の發露か。

▲茶袋▼

文藝調査會の委員會が開かれた結果は頗る政府と委員の意志に頗る懸隔があるので政府も委員も共に失望してをるとの事だ▲元來政府が文藝調査會を設けた趣旨は表面は兎も角も調査會を利用して淫靡文學を排擊せようといふが目的で文學の價値如何にあまり重きを措てをらぬ▲所が委員の方では遙かに文藝家だけに之れを以て文藝家保護の機關にせうとする樣であるこれは當局者の頗る喜ばぬ事であればつまりは双方失望の餘り文藝調査會も終に空名に終ることであろう▲京大岡村教授が教育會で極力家族制を非難し岐阜縣の教育者を狼狽さした上に縣吏共を騷がした、騷ぐ縣吏の行爲も褒められた事でないが、教育會の講演に適應せぬ學說を饒舌るより少し適宜な問題があつたら其邊に注意せぬ岡村博士亦不謹愼の誹は免れない。

▽一日一訓△

一仙の財產なきも怠惰ならざる男子は百萬の富あり（米國諺語）

●宇佐川總裁赴任 東上中の宇佐川東拓總裁は歸任の途郷里山口に立寄り來る十二日夜歸京の筈

公人私人

▲前原貞晴（地方局技師） 九日入京 不知火

▲和田維四郎（工學博士） 入京の所九日釜山

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客（九日分） 乘車客 七七七 下車客 八六六 乘車賃金 一、六六九、七

▲南大門驛貨物高（九日分） 發送 大五噸 到着 三〇八噸

▲龍山驛乘降客 乘車客 二六三 下車客 二五一 乘車賃金 三〇七、八八

▲龍山驛貨物高（九日分） 發送 三一噸 到着 一一九噸

日本と南洋地方

近年我國人口の増殖率は頗る加はり年々五十萬と計上せられ將來の始末に付き朝野の識者の憂慮するも無理ならざる次第なるが日清日露の兩戰爭後我國土の膨脹著しく臺灣、樺太、韓國を併せ南滿洲は我勢力範圍となり其過剩人口の移殖上、多大の便宜を得たると共に内閣には拓殖局置かれ學界には帝國大學に殖民の講座を設置するに到りたるは時勢の推移上さもある事なる可きが由來我國民は永く海外との交通を鎖したる爲め謂ゆる島國根性を脱する能はずして歐米人の如く其富を遠く海外に求むるの氣風に乏しが雖も近年漸く膨張を異域に伸さんとする傾向あり唯々北米の彼岸には排日熱盛んにして容易に近く可らず南米諸國の有望の聲のみ大にして未だ好信を傳へず南滿洲は我勢力範圍なるも先年米國より一種の中立地帶説の提議せられたることあるに加へて還回淸國に於ける借款の支途及擔保か風説の如く東三省に於て大の關係を有すとせば今後或は我が利權に障礙を來し或は中立地帶の名義を換へたるものと同質のものを見るに至らんも知る可らず翻て南洋方面を觀るに世人の指目する濠洲には排日の聲高く佛國は印度支那に據り和蘭は母國は小なりと雖も南洋に於て爪哇スマトラセンベス、ボルネオ等の大面積を擁有し英國は印度馬來を領有して南洋海面を自己の湖水に面視し米國は比律賓を有し又獨逸は近年に到りて南洋諸嶋に着眼する事甚だ鋭く其活動の刮目す可きものあり近時和蘭のフリーシングンの對英防禦問題に關し獨逸は自國の聯邦制度を利用し波蘭分割の如き轍を辿らずして和蘭女王の位を繼續し同國をして議會を有せる獨逸聯邦の一國たらしめんとするの説もありて南洋諸島の蘭領は隨つて自然に獨逸の手に歸す可しと云ふのあり斯の如く列強互に覇を南洋に稱へて下らざるに際し我に實力なくして此の方面に縱横の策を施すの術なしとせば失速なれど遲羅英海峽殖民地英領諸島の如きは土地は豐饒にして天然物に富み帝に我資金を抱きて起業にせんとするものにも大の便宜ある地方なれば徐々に事業の基礎を扶植して發展を謀ることも亦遲しとせず其の事業の一二を言へば護謨煙草綿花珈琲木材等あり通商上、彼よりは原料を仰ぎ、我は彼の嗜好物を供して南洋一圓に販路を擴めんとせば歐米の如き遠隔に國を爲すものに比し我の便利なるは勿論なれば此方面の拓殖、亦前途有望なるのみならず列國、對時上にも又必要なきに非ざるべきといへり

제701호　1911. 6. 11.



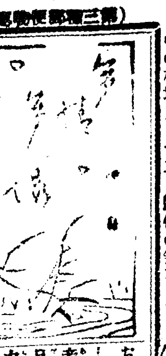




拓殖局長官は歸任の途郷里山口に立寄り來る十二日夜歸京の筈
●檜垣長官歸任期 管內巡視の爲出張中の檜垣氏は十二日歸任の筈なりと

▲前原貞晴(地方局技師) 九日入京不知火
▲和田維四郎(工學博士) 入京の所九日釜山
▲前川益次(順天農野金融主任) 九日入京滿尾へ

▲南大門驛乘降客(九日分) 乘車客 七七七 下車客 八六六 乘車賃金 一、六九九、七一
▲南大門驛貨物高(九日分) 發送 六五噸 到着 三〇八噸 貨物賃金 七、二三
▲龍山驛乘降客(九日分)客
▲龍山驛貨物高(九日分) 發送 三一噸 到着 一一九噸 貨物賃金 七八、四〇



京城藝妓の半生(卅一)
清華亭の一駒(一)

「唐突に何んですね、幾歳位に見へましよう……アラ二十一か二だらうつて買ひましようよ一杯、ホントよモウ二十六なんです、將來が案じられますよ」と一寸嗜ぎの虫や赤蛙酒アとして物案じの容子を見せる「生れ故郷は大阪は南の宗右衛門町だす、と行きたい處ですが妾は何う云ふものか國言葉が拙いの、矢張慣れた殖民地言葉でれ話しシ……御存じでも御座いましよう大阪の宗右衛門町は藝妓屋町でしてね、れ差し合ひがあつたら御免を蒙りますが此の町の者は越後者と同じで女の子が出生れば大喜び男の子だと厄介者にすると云ふ厄介な土地なんです、妾なんぞも幸福だか不幸福だか女と生れたので三味線糸で臍の緒を切つたのですよ、十三の年の春伊丹幸席から龍子と名乘つて半玉で出ました、姐さんのれ尻へ着いて御座敷を引つ張り廻されること滿一年の十四の春、忘れませんよ一生ね、西の靭の干物問屋の山村三吉と云ふ人に寵愛を受ける事になりました、馬鹿に早稲だつて仰云るの可愛相によ、斯うした稼業をするものゝ大抵然うですよ」と初心らしく節を根らめて「十七の秋落籍されて東京へ行つて淺草の福井町に五ケ月斗りも同棲して居ましたが旦那の山村さんナカ〳〵左様した事の爲て居られる身分でない、のと其他にも事情があつて別れて大阪に戻つたが他に爲る事もないから又候ふ伊丹幸から元の名で一度の勤めと出掛けましたが前科者だから面白いこともないので神戸中券に鞍替しました名は菊勇と景氣よく出て見たが大した景氣も出ない旦那と云つたら貿易商の秋山吉次郎、云ふ人だけ、エ一人ぢや足りないかつて……マア憎らしい……左様云ふ理由ではないのですよ、妾が申す意味がれ判りにならんのね、旦那は一人で澤山だけど其の方が餘り力になら無かつたと申すんですよ自烈度い」とヤケに衣紋を突いて「デも良い家配に乾物にもならず虫の息なるものを通はして居た十九の年の十一月即ち明治三十七年日露戰爭の眞最中玄海の荒灘に揺られて仁川に來て御存じの通り一山本店から今と同じ名で出ました、航海中の恐さ怖ろしさはれ話しに成りませんでしたね、私が着いた時分の仁川の景氣ッたら素晴しいものでしたよで御祝儀を受けた方も澤山でしたが取り分け請負師の吉村さんには翌年の三月頃から一方ならぬ御引立を受けることになり互に憎からずッてね次第、思ひ思ふた揚句の果、女は受け身の悲しさ妾しのれ腹には塊りが出來ました、二ケ月三月は袖でも隱す四月五ツ月と成つてはモウ駄目、息切れはする身体は倦怠い、孕む筈のない藝妓が孕んだと云ふので新聞には素破抜かれるれ客さまには冷評される、夫の我慢の出來ない程初生の妾ぢやないけれども、何分身体が堪りませんや、其の年の九月から休業して仁川花町に一家を構へて貰ひ靜かに養生することになりました三十九年の一月中旬産の氣づいて安々と、生み落したのが女の兒でした」と語り來つた彼れの顏には生氣が漲る(つゞく)

忍戀松浦の厄除

▽自分の家が鬼門に當る

當地本町通りの去る方に光源氏の君と綽名せらるゝ人あり此の人こそ彼の一代の文豪紫式部の君の筆にかゝりし其の卿を其のまゝの行き方なれば又の名を籐木とも呼ばれつゝ川竹の流れを漁りては藤袴ならぬアルパカの袴の裾の濡れがてに葵の前の根ふ辛みを聞くこと屢々なれど萩の上行く朝風程にも思はず手を代へ品を變へての發展に今は家內の誰れ彼れも諦めを附け何んとも云はれずなつて見ると扱夫れも尻コソバユクか少しは謹愼の狀あり十日程以前のこと帳場格子の內に神妙に何やら物の本繰り返し居たりしが突然妻君を呼び寄け「今年は此の家は俺には方角が惡いのだ、今ヤット判つたよ、ウム道理で今年になつてから善い事がなかつた兎に角方除けをするとすると東南が佳いと云ふからコーッと旅館では高く附からウム左樣だ南山町の東京館電話の番號も千五十七番彼處に下宿を仕よう、ナニ六、七、八、九月の中旬迄として三ケ月程方除けとして、ウンニヤ商賣の方には差し閊へはない何にしろ此の家は俺に暗劍殺だから」と血相變へて下宿する事になつたので家內の者は勿論友達連も出す妻君も要君だが馬鹿に擔いだもんだ商賣柄にも似合はないと笑つて居るが記者から見れば却つて「笑ふ其方が可笑しいぞ」だ「抑も彼の光源なるものが一身の安危に拘はるとて下宿をせんと申し出でたる際女房なるものは默てより止めても止まらぬ所夫の氣象を知るものから却つて夫れから自暴になり待合入りをなされては損の上の損なりと敏くも思案を定め良人の爲め家の爲め何にも云はず出したるは貞女なり孝女なり天晴れ〳〵」であるのだ、夫れが鑑定少しも違はず源氏の君は女房の心を知らず巧手に騙して遣つたりと東京館の表座敷の八疊に女の膝を枕にして千代八千代ぢやない向ふ三ケ月を契つたり結んだり藝妓の名は書けまいがなどシャクられた殘念紛に曰く京城券の秀香

●仁川築港起工式

(次第)

仁川築港祝賀會は愈々十一日擧行せられ荒井長官等の一行は午前七時四十分仁川驛着 民長出迎をなし同八時より太神宮に於て報告及地鎭祭を行ひ鎭礎式場に向ふ鎭礎式に民長及神官隨伴にて豫て寺內總督の揮毫せし鎭護の二字を彫刻せし(二尺五寸立方尺)の礎石は閘門船二隻を連結したる上に載せ四方には裝飾を施し中央に四尺方中の空を穿ち置き式用船に依て鎭礎地に至り同船の合圖により各船舶諸工場は一時に汽笛を鳴す事五分間時に五文島にては煙花打揚げ其の間に於て神官は礎石に向ひ御祓をなし久水仁川府尹令孃歌子は礎石の覆を拂ひ入軍樂隊の君が代を吹奏中に寺內總督其鎭を解き海底深く之を沈め永く仁川港の鎭護たらしめ同十時三十分茲に全く式を終へ都合なり一般來賓一行は同九時半仁川着の筈なれば樋口助役出迎をなし宴會場に案內す同十時爆竹を合圖に宴會を開き居上民長式辭來賓の祝辭最後に久水府尹の發聲にて寺內總督の萬歲を三唱し直ちに餘興を開演し園遊會に移り日淸鮮人の各種藝當の餘興あり○時三十分正賓退席民長及民會議員仁川驛迄隨行見送りを爲す筈なり

●仁川築港祝賀彙報

▲宮町は花の隧道 巳報宮町團數百の若手連は十一日早朝より揃衣にて花地車を曳き廻るのみならず各戶提灯以外に紅白の花を軒頭を飾りたれば晝夜とも花の隧道に似たり

▲中央料理店にては券番藝妓總出にて之に仲居連附添ひ伊達奴姿に扮し今回新造したる檜舞臺に裝飾を施し二日間市中を練廻り要々〳〵にては手踊をなす

▲踊りと劍舞と相撲は公園地及濱町本町等に於て二晝夜間斷なく演ずべし

▲夜の催は提灯行列あり之等に參列すべく本町團、穀物協會、東亞煙草會社其他多數の者種々なる趣向を凝し假裝行列あるべく實に二日間の仁川の賑ひこそ空前の事なるべし

●母への恨を子に報ふ

京畿道交河郡錦山里熊谷山中に於て斬殺事件あり被害者は交河郡新五里面錦山里曹錫明(二五)にして豫て神經過敏の性質の男なるが附近の曹德用(十六)の實母より屢々貴樣は人間にあらずなど惡口を受け怨恨を懷き何時か怨を晴さんと年二月中旬放火せんとせしも直ちに消火し意の如く行かざりしが去月三十一日曹德用と共に錦山里より二丁餘の西方なる熊谷の山中に草刈りに行き何人も居らざるを幸ひ曹德用が何氣なく草刈りに從事中を後より擔軍用の棒を以て頭部を毆打し其卒倒したるを見るや今度は草刈鎌を以て斬付け即死せしめたるが間もなく警察に捕はれ取調の上檢事局に送られ野田檢事の手にて取調中なるが兇器は何れも血に塗れて見るに忍びざる程なりと

●山道氏被起訴

刑事被告事件に付き檢事局の取調を受けつゝありし山道襄一は豫審決定し愈十日起訴されたり

●電線を切取る

釜山馬山間の電線二十八條百八十間線を八日午前一時より同五時迄の間に於て切斷して持ち去りたる者ありこれが爲に釜山馬山間は通信不能なりしが應急修繕を施し漸く同日午後八時より開通するに至れり

●銀貨僞造

忠淸南道青陽郡南上面の金必聖(三四)は同類十二名と共謀して五十錢、二十錢、十錢、五錢の各種の銀貨を僞造せるを公州警察署の探知する所となり去五日逮捕せられたるが彼等が是れまで僞造行使したる分は八九百圓の多きに上ると云ふ

●太田の謀殺事件

京釜線驛太田の理髮業者金城順通(三七)は同業者橫山儀太郎(三六)と營業上の確執より常に反目しゐたるが去る六日金城は短刀を以て橫山方へ荒れ込み橫山の肋部及頭部へ斬り付けて重傷を負はせ其足にて太田警察署へ自首したり被害者は同地佐藤病院へ入院治療したるも七日死亡したり

●醉漢の說諭放免

福岡縣筑紫郡太宰府町當時明治町居住小野子燕(三五)は九日午後六時三十分南大門派出所の硝子を杖にて打ち破らんとせしを警官に認められて逃走し今度は通行人に暴言を吐くより暴動不審として南部署に引致取調の結果泥醉の上爲したる事とて說諭放免さる

●戀は思案の外

岐阜縣惠那郡長島町大字須見八十一番地大工職成瀨林次郎(三〇)は郷里に兩親及び妻子を遺したるまゝ附近の町野音次郎長女れ里(二三)を連れ無斷家出せし由にて實家は非常の困難し殊にれ里は音次郎の相續人とて非常に迷惑し其の筋に搜査願提出せりと

日曜集會

●京城基督教會 過日會堂建築を了へたる京城基督教會にては南大門內相生町(度支部長官々舍下)なる新會堂に於て十一日午後二時より嚴肅なる獻堂式を擧行する由尚午後八時より多年日本に在留する有名なる宣教師ローランド博士傳道說教ある由にて登聽隨意なり

●メソヂスト教會 旭町二丁目なる同教會にては十一日午前十時より藤岡牧師の禮拜說教「宗教の力」午後八時より讃美歌の練習同八時半より同教師の傳道說教「神に歸れ」あり

●日本基督教會 旭町四丁目の同教會にては午前九時より日曜學校生徒は花の集會を催し且つ信者と共に禮拜を兼ね秋月牧師の說教あり午後八時よりは同牧師の傳道說教ある筈なり

●般若心經並無門關提唱 若草町一丁目曹洞宗兩大本山別院にては十一日午前十時より主任田中道圓老宗師の無門關、般若心經等の提唱ありと云ふ

●微笑會 十一日午後四時より初音町二丁目臨濟寺に於て圓山太嶺禪師の無盡燈論提唱あり

●演藝だより

●歌舞伎座 好人氣を博せし新派翠香團鶴田俊之助一行は愈々十一日限り當地を打ち揚げ大興行は龍山座に開演すべく依て特に御名殘藝題として特に新派劇の翠香團たる不如歸を全九場に仕込み演ずる由 乳母たいく(神邊)海軍中尉川島武夫(武田)家扶田崎(竹內)高利貸松田、醫學士高村晃(月岡)川島慶子、陸軍中將片岡毅(山田)山木れ豐(松浦)女中れ品(小松)加藤夫人(木村)御用商人山木兵造(喜多)川島浪子(柴田)從卒上田(淸水)片岡夫人(森本)看護婦森田正子(鈴木)千々岩安彥(鶴田)

●龍山座 京都新派翠香團鶴田俊之助一行にて愈々十二日乘込初日の藝題は翠香團十八番の「犯さぬ罪」全九場幕なしを以て演ずる由 南家屋藪た熊、齋生山田實(神邊)南步兵中尉(武田)北陸軍大尉(竹內)斐男爵(月岡)東陸軍少佐(山田)田中一等卒(小松)南夫人鈴子(木村)犬井憲兵(喜多)斐辰子(柴田)陸軍曹長西八郎(鶴田)

●繪畫の心得ある記者入用 希望の方は履歷書携帶至急來談あれ 京城新報社

●天氣豫報(自十日午後六時至十一日午後六時) 西の風晴